

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年6月2日

【評価実施概要】

事業所番号	0870101540		
法人名	有限会社 アンビション		
事業所名	グループホーム あすなろ		
所在地	茨城県水戸市島田町3403-1 (電話) 029-267-7301		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年2月10日	評価確定日	平成21年5月29日

【情報提供票より】 (平成21年1月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年6月2日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 13人, 非常勤 7人, 常勤換算 8.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建の ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成21年1月14日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	1	要介護2	6
要介護3	2	要介護4	8
要介護5	1	要支援2	
年齢	平均 84 歳	最低 59 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	加藤内科、尚仁会クリニック、柳橋整形、大串歯科 ハーモニーデンタルクリニック
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自治会に加入し地区運動会や敬老会、地域清掃活動に参加するとともに、幼稚園児やボランティアを受け入れ交流している。
同業者と県内外の施設見学やホーム主催の勉強会を通して交流しサービスの質の向上に活かしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価では課題はなかったが、管理者や職員はADLの低下予防や感染症の改善などに努め、利用者が家庭的な雰囲気の中で生活ができるよう思いやりのある介護に努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の意義や目的を全職員に周知するとともに話し合い、管理者がまとめて自己評価を作成している。 自己評価や外部評価を日々のケア改善の機会と捉え、職場全体で外部評価結果をサービスの質の向上に活かしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は地域の代表や家族の代表、民生委員、行政、有識者、近隣施設職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では外部評価結果やホーム事業、利用状況や利用者の生活状況、防災や災害時の受け入れ、終末期ケアなどについて報告や話し合いを行うとともに意見をサービスの質の向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>職員は家族の訪問時に話を聴いたり年2回の家族会会議や個別面談のほか、家族満足度アンケートなどを通して不満や要望等を聴き、出た意見を運営やサービスの質の向上に活かしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し地区運動会や敬老会、地域清掃活動に参加するとともに幼稚園児やボランティアを受け入れ交流している。 地域の花火見物の際にホームを開放したり、地域の人々にホーム行事や介護の勉強会に参加を呼びかけるなど積極的に交流している。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念を基に職員等で話し合っ て作成した「家庭的な時間の流れと想いや りのある介護」を理念に掲げ、利用者が 生きる喜びをもち地域の一員として生活 できるよう安心と尊厳のある生活支援に 努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念 の実践に向けて日々取り組んでいる	名札の裏に理念を明記し、会議や個別面 談等で再確認するとともに理念の共有に 努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員 として、自治会、老人会、行事等、地域 活動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	自治会に加入し地区運動会や敬老会、地 域清掃活動に参加するとともに、幼稚 園児やボランティアを受け入れ交流して いる。 地域の花火見物の際にホームを開放し たり、地域の人々にホーム行事や介護 の勉強会に参加を呼びかけるなど積極 的に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、 評価を活かして具体的な改善に取り組 んでいる	外部評価の意義や目的を全職員に周知 するとともに話し合い、管理者がまと めて自己評価を作成している。 自己評価や外部評価を日々のケア改 善の機会と捉え、外部評価結果をサー ビスの質の向上に活かしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域の代表や家族の代表、民生委員、行政、有識者、近隣施設職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では外部評価結果やホーム事業、利用状況や利用者の生活状況、防災や災害時の受け入れ、終末期ケアなどについて報告や話し合いを行うとともに、出た意見をサービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議やホーム行事などに市の担当者が参加し、運営課題等について相談するなど連携を図っている。 また、介護相談員を受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や家族会会議、担当職員によるメッセージの送付、広報紙の活用、行事用写真やビデオを見せるなどで利用者の暮らしぶりを報告している。 また、訪問できない家族へは電話で暮らしぶりを報告している。 家族了解のもと金銭をホームで預かり、個々に応じて支援や報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族の訪問時に話を聴いたり年2回の家族会会議や個別面談のほか、家族満足度アンケートなどを通して不満や要望等を聴き、出た意見を運営やサービスの質の向上に活かしている。		
9	18	職員の異動等による影響の配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は2年間異動していない。 職員が異動する場合は引き継ぎや家族への報告をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人研修や外部講師を招き2ヶ月ごとに内部研修を実施するほか、外部研修や視察研修を実施し職員は積極的に参加している。 また、福祉専門誌等を定期的に購入し職員に情報を提供している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接する同業者へ呼びかけ、外部講師による勉強会を合同で実施しサービスの質の向上に活かしている。 また、他のホームの視察や他のホーム職員の見学を受け入れるほか、ホームの勉強会に他ホーム職員も参加するなど同業者と情報交換してサービスの質の向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心して生活ができるよう自宅や福祉施設、病院への訪問やホーム見学等の支援をしている。 不安な利用者には電話をかけた後家族訪問をお願いするなど徐々に馴染めるよう支援している。 また、利用者は隣接のデイサービスやショートステイを利用していた方が多く職員と顔馴染みになっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を家族と思い玄関掃除や下膳、食器拭き、洗濯物たたみ、裁縫、ホーム行事などを通して学んだり励まされたり共に支えあう関係と感謝の言葉が聞こえる暖かな関係を構築している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日誌や職員の全体会議、家族との話し合い、日々のかかわりのなかで利用者の言葉や表情、動作から思いや意向の把握に努め利用者本位に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望を聴き、計画作成担当者や職員で話し合い介護計画を作成している。 介護計画は家族や利用者に説明し、共有を図るとともに家族の確認印を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	センター方式を利用し、介護計画期間を定めた見直しや心身の状態の変化に即した見直しをしている。 また、家族の意向や個別記録により、新たな情報や意向を把握し、現状に即した介護計画に見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望にそった通院や早期退院、面会時の家族送迎、車椅子の貸し出しなどの支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の安心した生活が確保できるよう、利用者や家族の希望にそったかかりつけ医の受診を支援している。 また、受診結果報告書を作成し職員が共有するとともに家族に報告している。 複数の医療機関と連携し、受診方法や通院等を利用者や家族に説明している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方についてマニュアルや意思確認書を作成し、契約時や運営推進会議で説明をしている。 ホームは看護師を配置し終末期の対応をしており、利用者や家族の希望にそえるよう支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの誇りや、プライバシーに配慮した言葉かけや支援に取り組んでいる。 また、個人情報の取り扱いを契約時に説明するとともに、全職員が秘密保持の契約書に同意している。 関係書類等は決められた場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや体調に配慮するとともにその時の利用者の気持ちを尊重し、下膳や洗濯物たたみ、玄関の清掃、裁縫、買い物、散歩など柔軟に支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は食の安全を考慮し地域の野菜を利用している。 職員1名が利用者と同じメニューを検食し、他の職員は食事や言葉かけ、服薬等の支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望や体調に合わせて毎日支援するとともに、入浴時間は利用者の希望にそって支援している。 入浴を拒否する利用者には足浴や清拭を行うほか週2回は入浴するよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食材の買い出しや下膳、食器拭きや玄関の掃除、洗濯たたみ、裁縫、テレビ鑑賞など利用者一人ひとりに合った楽しみや気晴らしの支援をしている。 また、たばこを好む利用者へは喫煙場所を確保し支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望により散歩や買い物、馴染みの理髪店での洗髪、花見、水族館見学などを実施し気分転換やストレス発散、五感の刺激の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけず、安全面に配慮しながら利用者の自由な暮らしを支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成し消防署と連携して年2回避難訓練や通報訓練を実施している。 また、隣接する施設の協力体制により、災害時の地域の人々の受け入れや飲料水、ビスケットなどの非常食を確保している。	○	地域の人々へも避難訓練の参加などを呼びかけ一緒に避難訓練が実施されることを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に相談し彩りや季節感、行事等を考慮して栄養バランスの取れた食事を提供している。 食事量や水分摂取量をチェックし記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い共用スペースに椅子や机、テレビ、ベンチなどを配置するとともに、日あたりの良い中庭にウッドデッキを設置し、季節を味わいながら利用者同士がくつろいだり一人で過ごせる居場所を確保している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の使い慣れた時計やテレビ、小物入れ、歯ブラシ、湯のみ、化粧品、カレンダー、手作り品などを持ち込み、居心地よく過ごせる場所になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。